

# 令和3年度 学校教育自己診断 [最終報告]

令和3年10月13日実施

作成日：令和4年2月3日

大阪府立岸和田支援学校

本年度は学校教育自己診断アンケートを10月13日に実施しました。

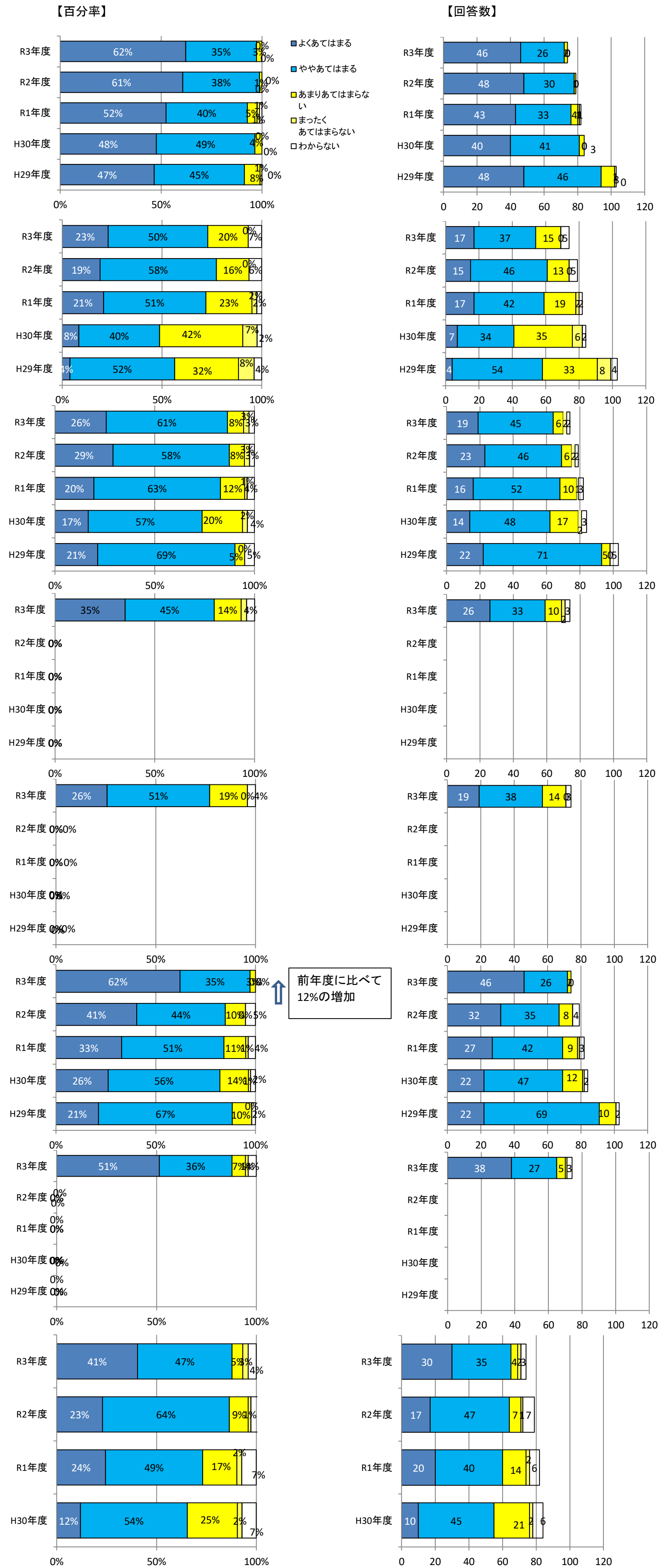
最終報告では、その結果をグラフにまとめて分析結果を掲載しております。

令和3年度 学校教育自己診断 教職員 5年間比較

作成日 令和3年11月16日

令和2年度	常勤教職員数 = 78	回答数 = 77	回答率 = 99%
令和3年度	常勤教職員数 = 76	回答数 = 74	回答率 = 98%

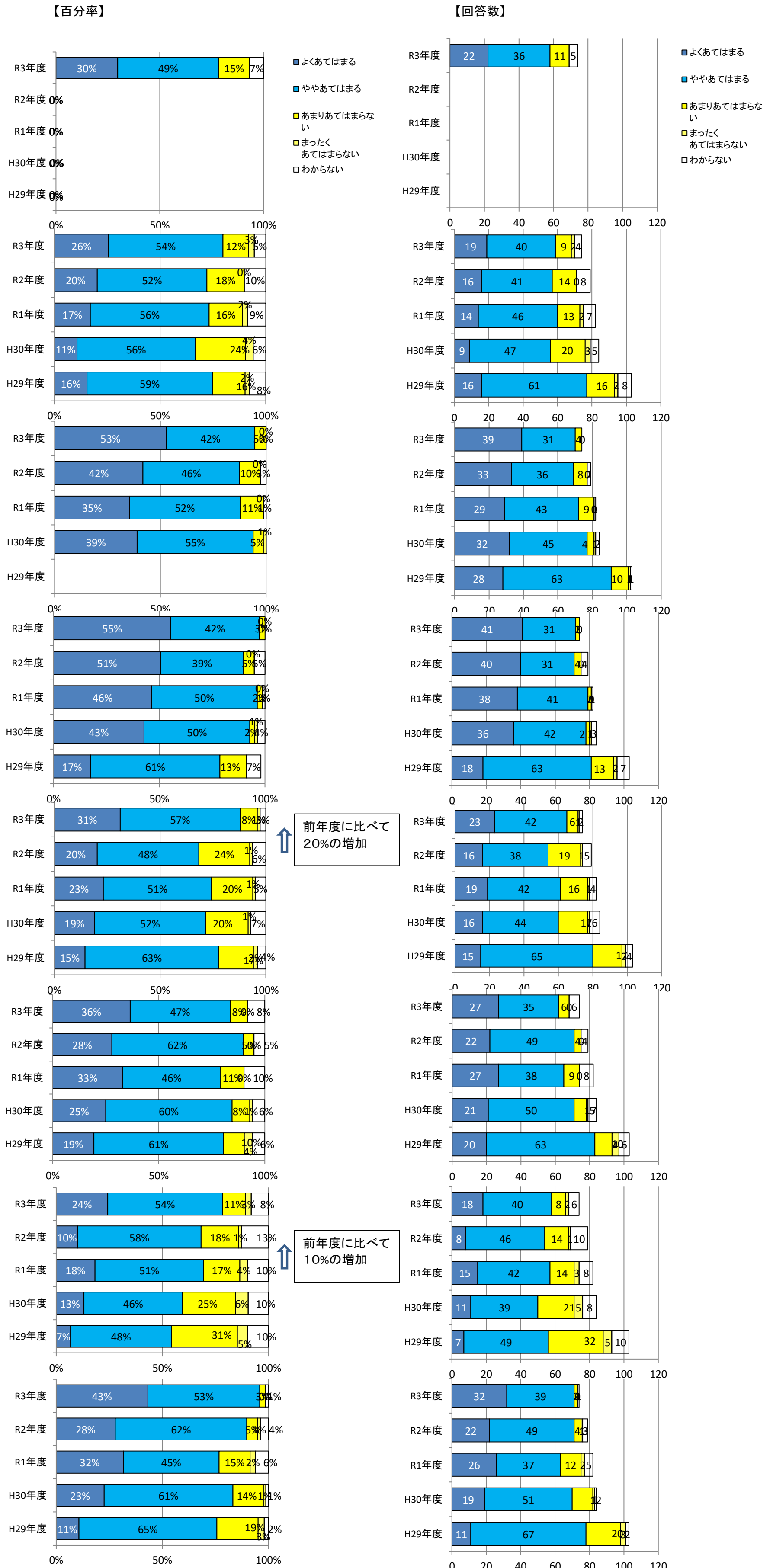
診断内容
1 本校の教職員は所属以外の児童生徒にも気軽に挨拶をしている。
2 学校は分掌再編をととして業務内容を見直し、精選を進めている。
3 学校は研究授業・公開授業週間を積極的に企画し、授業力向上に取り組んでいる。
4 私は楽スタの指導方法について理解し、効果があると感じている。
5 私は視線入力の指導方法について理解し、効果があると感じている。
6 学校は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、行事を工夫して実施している。
7 学校は給食を安全に提供するため、ペースト注入についての内容の検討をおこなうなど摂食指導について常に新しい課題に取り組んでいる。
8 個別の教育支援計画をもとに個別の指導計画を作成し、実施後速やかに評価して次の指導に活かしていく、PDCAサイクルが、学校として確立できている。



令和3年度 学校教育自己診断 教職員 5年間比較

令和2年度	常勤教職員数 = 78	回答数 = 77	回答率 = 99%
令和3年度	常勤教職員数 = 76	回答数 = 74	回答率 = 98%

診断内容
9 私は新学習指導要領に沿った観点別評価を理解して評価を行い、指導につなげている。
10 学校は発達段階に応じて身辺自立に関する指導やソーシャルスキルおよび将来設計など生きる力をつける教育(キャリア教育)の推進ができています。
11 学校は子どもの人権やプライバシーに十分配慮して指導している。
12 学校は子どもの体調の急変や怪我、いじめについてもすぐに気がつける体制を整えている。
13 学校は丁寧な引継ぎを行うなど学部間の連携ができています。
14 学校は進路・生活支援や支援教育に関する情報を保護者に十分に提供している。
15 学校は地域を支援できる人材と体制を整えている。
16 私は肢体不自由支援学校の教員として必要な専門性を持つため、自己研鑽に努めている。



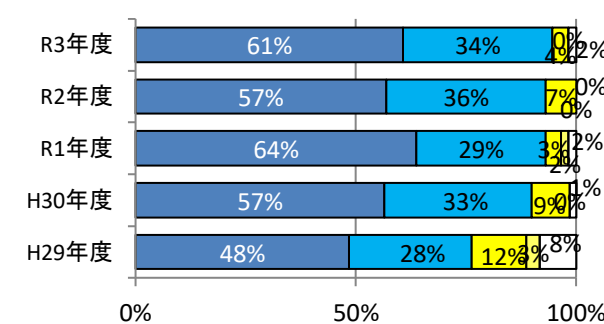
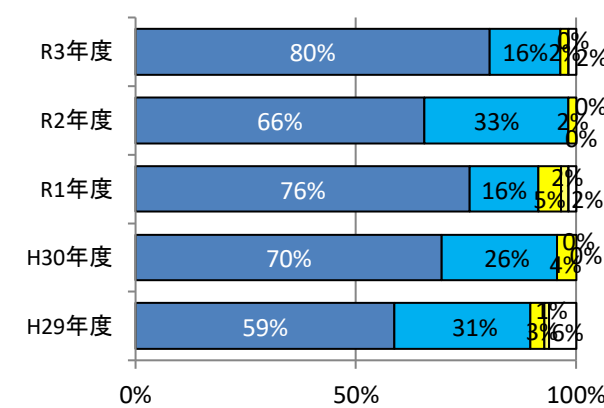
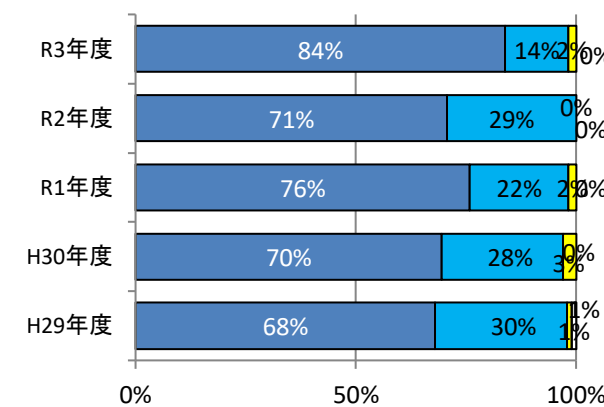
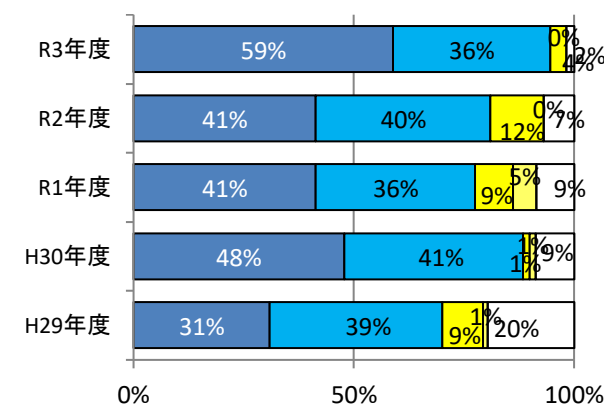
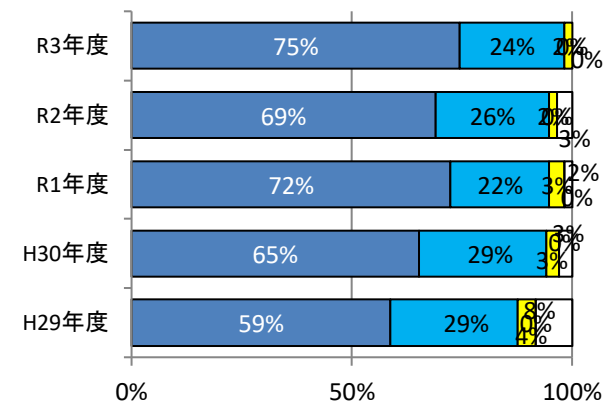
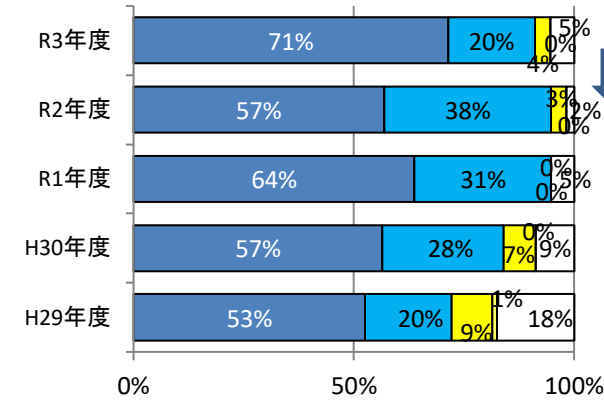
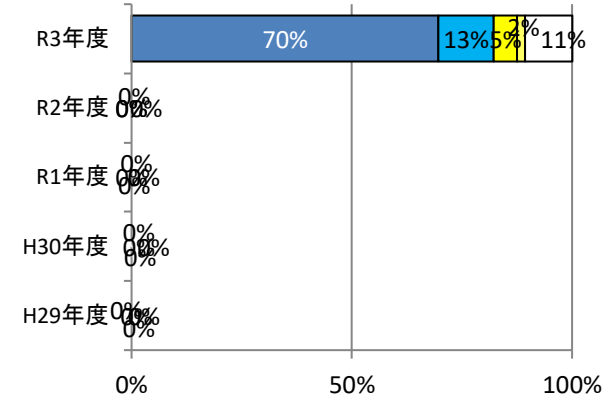
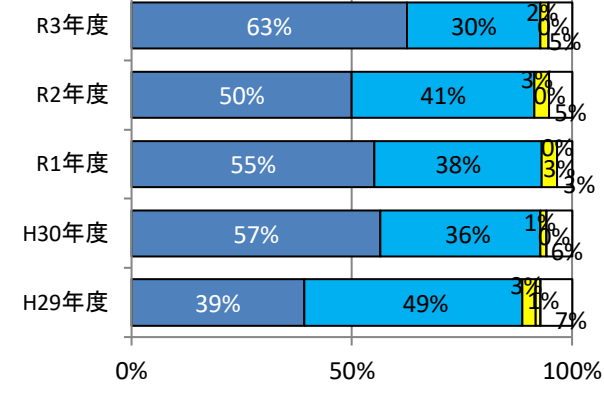
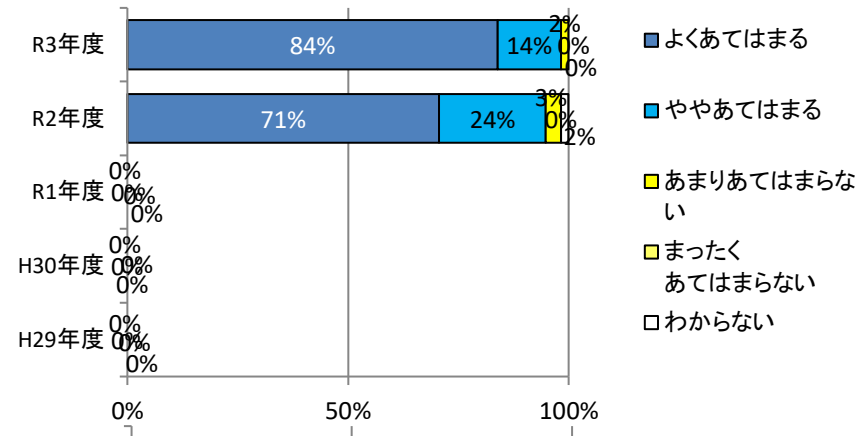
令和3年度学校教育自己診断 保護者 5年間比較

作成日 令和3年11月16日

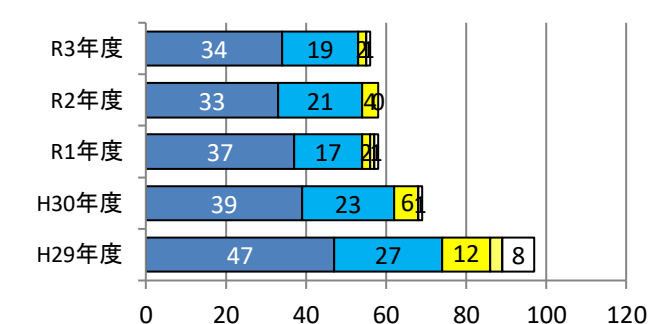
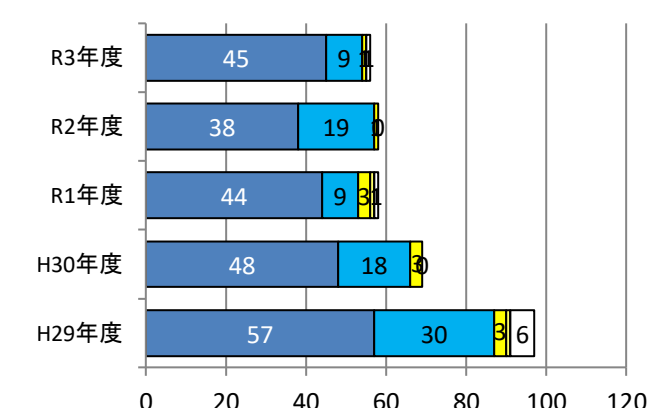
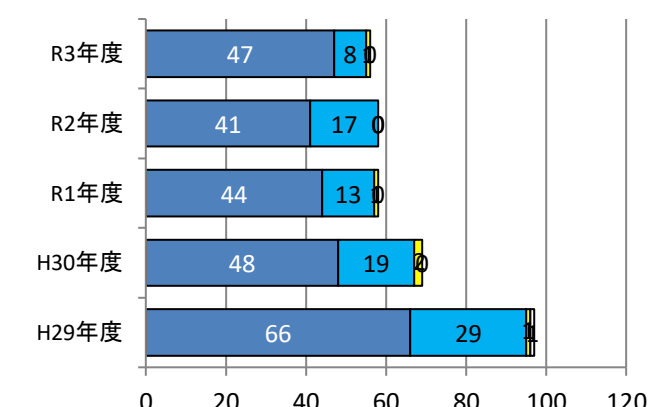
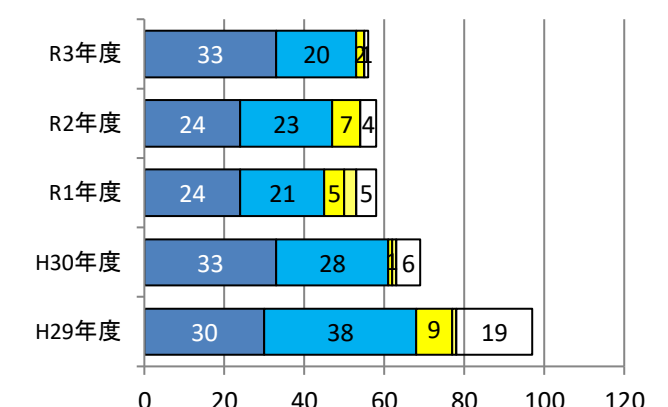
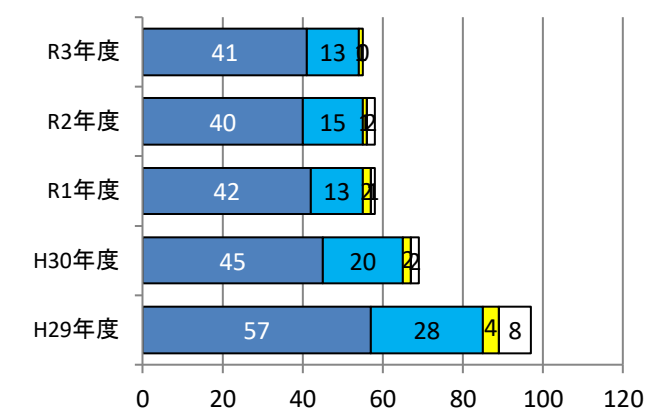
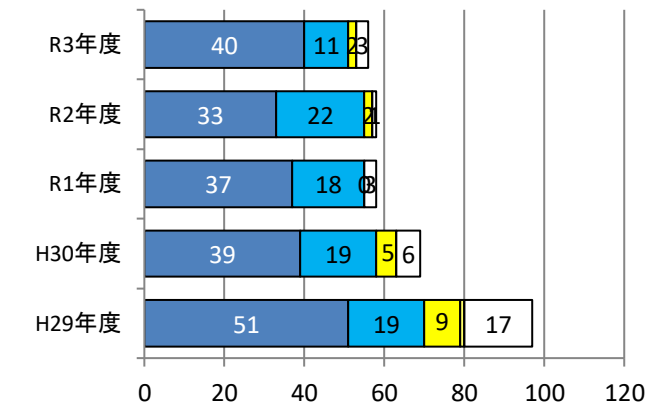
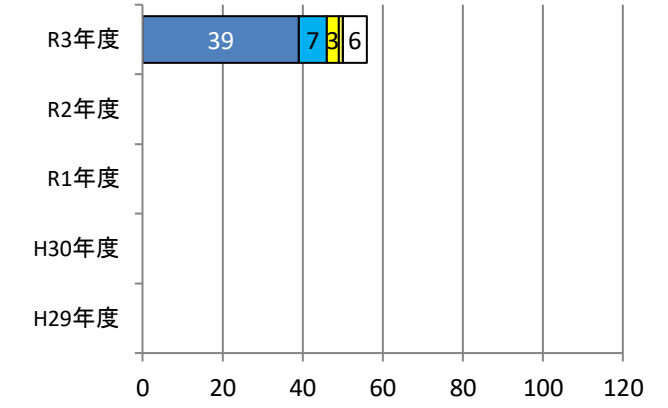
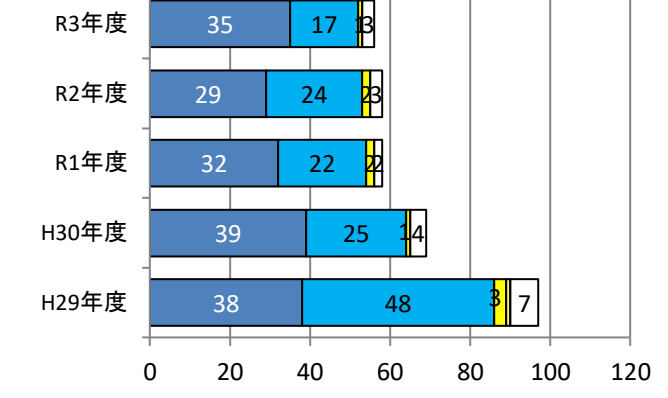
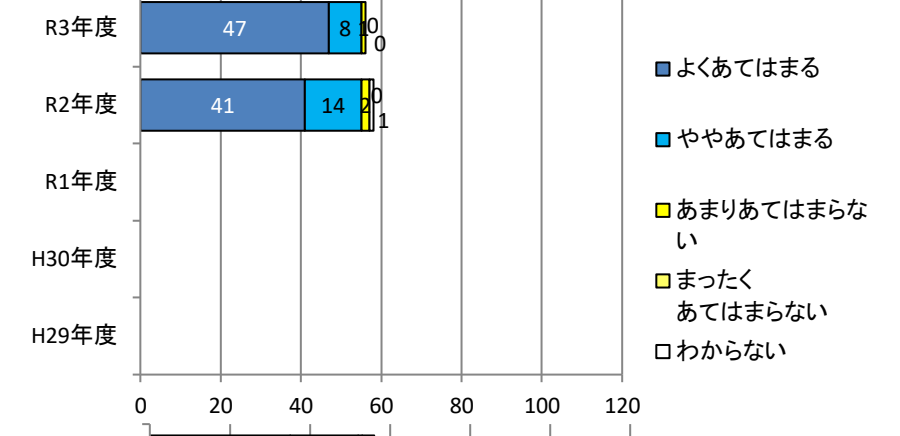
令和2年度 在籍数 = 89	回答数 = 58	回答率 = 65%
令和3年度 在籍数 = 86	回答数 = 56	回答率 = 65%

診断内容
1 子どもは、学校へ行くのを楽しみにしている。
2 子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている。(表情から読み取れる。)
3 有効なら楽スタの訓練を自分の子どもに取り入れてほしいと思っている。
4 学校はあいさつの大切さ、思いやりの心、生命を大切に作る心、ルールを守る態度を育てる授業に取り組んでいる。
5 学校は子どもの人権やプライバシーに十分配慮して指導している。
6 発達段階に応じて身辺自立に関する指導やソーシャルスキルおよび将来設計など生きる力をつける教育(キャリア教育)の推進ができています。
7 通知票は支援の手立てや学習の状況(様子)が適切に評価されている。
8 学校は個別の教育支援計画にもとづいて適切な支援を行っている。
9 肢体不自由児の特別支援学校としての十分な専門性がある。

【百分率】



【回答数】



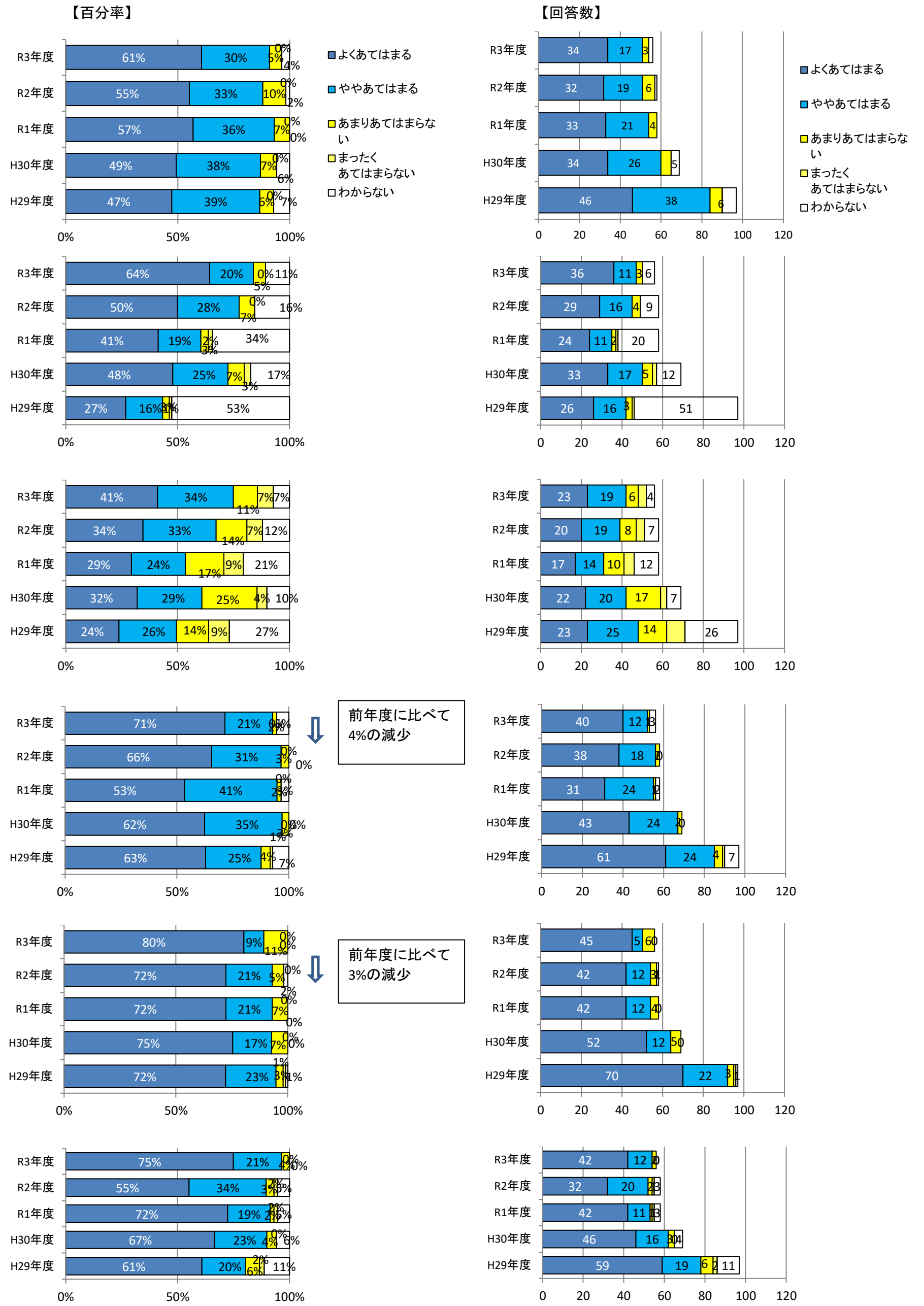


令和3年度学校教育自己診断 保護者 5年間比較

作成日 令和3年11月16日

令和2年度 在籍数 = 89	回答数 = 58	回答率 = 65%
令和3年度 在籍数 = 86	回答数 = 56	回答率 = 65%

診断内容
10 学校は進路懇談会や広報誌「やまもも」などで将来の進路や生活支援・支援教育に関する情報を適切に提供している。
11 医療的ケアは、子どもの実態に即して適切に実施されている。
12 学校経営計画・学校運営協議会があるのを知っている。
13 学校は新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、授業参観や行事などを行っている。
14 担任、担任以外の先生も気軽に挨拶をしてくれる。
15 子どものことで悩んだときに、担任・学校と適切に相談できる。(いじめがあったときも同じように相談できる。)

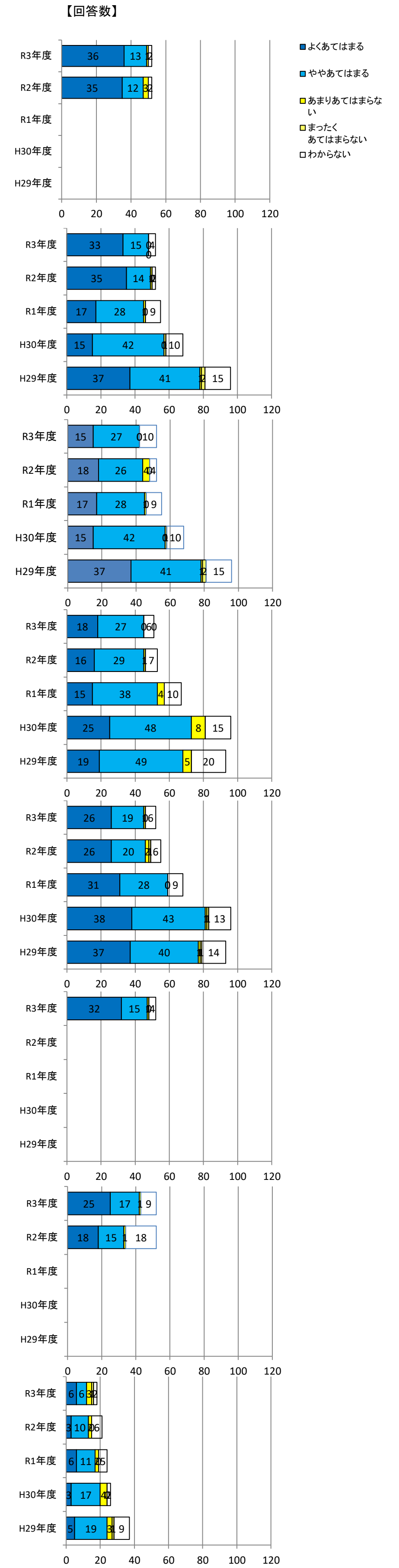
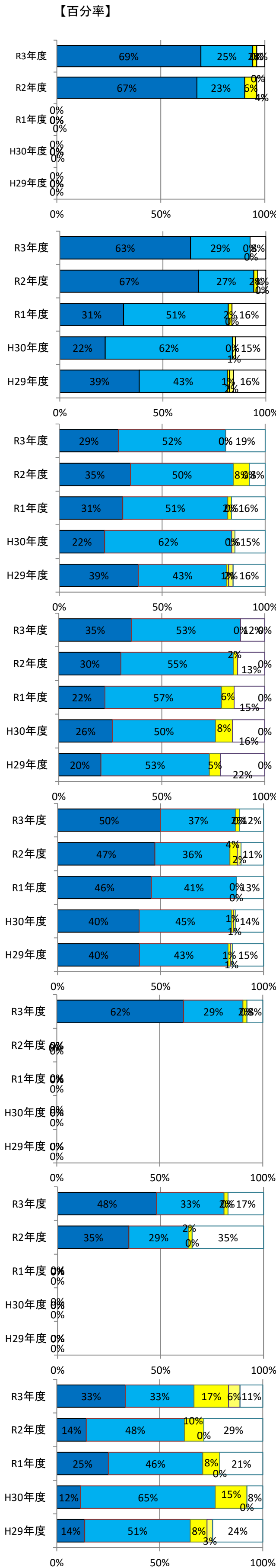


令和3年度 学校教育自己診断 児童生徒 5年間比較

作成日 令和3年11月16日

令和2年度	児童生徒数 = 89	回答数 = 53	回答率 = 60%
令和3年度	児童生徒数 = 86	回答数 = 52	回答率 = 60%

	診断内容
1	学校に行くのが楽しいですか。
2	スポーツフェスタ、学習発表会、遠足、修学旅行などの学校行事は楽しいですか。
3	学校に仲のいい友だちがいますか。
4	学校での勉強はわかりますか。
5	先生は私たちの話をよく聞いてくれますか。
6	先生は、私たち一人ひとりに合わせて自立活動をしてれていますか。
7	先生は、いじめも含めて私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれますか。
8	卒業したあとの生活について具体的に考えていますか。(高等部のみ、お答えください)



学校教育自己診断の結果とその検討について

大阪府立岸和田支援学校

1. 教職員アンケートより

- ① 項目4（楽スタの指導方法）については肯定的評価が80%となり、項目5（視線入力 of 指導方法）については77%となった。

→項目4（楽スタの指導方法）について

自立活動専任の教員からレクチャーを担当が引き継ぐことで効果を感じ、児童・生徒への指導を継続していると思われる。楽スタに取り組んでいる教員は効果を感じることができている。取り組んでいない不安がある教員に対して、今後も専任が入っている自立活動の時間帯を有効に活用し、楽スタの活動につなげたい。

項目5（視線入力 of 指導方法）について

自立活動専任の教員の指導についての効果は多くの教員が実感している中、教員が一人で使いこなすにはハードルが高く、指導者が少ないのが現状である。今後も自立活動専任の教員の指導や「視線入力だより」を通して多くの教員に伝え、引継ぎができるよう活動していく。

- ② 項目7（学校給食の安全）については87%となった。

→ペースト食注入について本年度の取り組み

シリンジを使用して胃から注入するペースト食は、給食室で調理し提供している。調理時の工夫や配慮とともにマニュアルの検討・整備を行った。衛生面やアレルギー等への配慮はもとより、チューブの詰まりが生じないように、ペースト食の形状、粘度にも配慮した。食材を楽しみながら摂取できる食育の観点も大事に工夫している。

新規にペースト食注入を行う場合、希望する児童生徒の保護者からの依頼と主治医の指示を受けて安心安全にペースト食注入を実施するための条件を設定し、校内で周知をした。

- ③ 項目9（観点別評価）については79%の結果となった。

→シラバス・個別の指導計画・指導要録の作成時の観点別評価について伝達を行ったことで、一定の理解を得ているといえるのではないかと。

より理解が深まるように大阪府教育庁から出されている資料等を活用し、引き続き周知をしていく。

- ④ 新たに行事における新型コロナウイルス感染症対策の内容を盛り込んだ項目6については9



7%となり、教職員の取り組みへの意識の高さがわかった結果となった。

⑤ 項目13（引継ぎと連携）について88%と高い結果が出た。

→3月末には小中引継ぎ会と中高引継ぎ会を行っている。新年度に入り、各学部のコーディネーターより「引継ぎ会の後、児童生徒の指導で前任者に確認したいことがあったか。解決しているか。」調査を行った。登校後の取り組みや流れなどの回答があったが、すでに前任者に直接聞いて解決済みであった。その結果から良好に連携できていると考えている。次年度も同じように調査を行い解決できていない点があれば各学部のコーディネーターが仲立ちして解決していくようにする。

⑥ 項目15（地域を支援できる人材と体制）について78%と増加した。

→夏期休業中に予定している地域小中学校との合同相談会への参加者中心に、2日間地域支援人材育成の集中研修会を行った。合同相談会に初参加の教員も「自信を持って参加できた」と好評であった。同時に研修会の存在が他の教員への地域支援に対する意識づけになったのでは考えている。次年度は研修内容を精選し、1日全日を使った合同相談会研修会として実施したい。

## 2. 保護者アンケートより

- ① 項目3（有効なら楽スタの訓練を取り入れてほしい）が83%となっている。保護者の方のニーズの高さがうかがえた。
- ② 項目4（あいさつの大切さ、思いやり、生命の大切を育てる授業）が5%減少
- ③ 項目13（新型コロナウイルス感染症対策と行事や授業参観）が4%減少した。感染症のため1学期に運動会が中学部と高等部で実施できなかったことが数字にも表れたと理解している。
- ④ 項目15（教職員のあいさつ）が3%の減少。

### 自由記述欄より

- ・新型コロナウイルス感染者が出た場合、学部の情報や児童生徒か先生なのかだけでも情報が欲しい。(2件)
- ・修学旅行が新型コロナウイルス感染症蔓延のため、日帰りになったのが残念。
- ・コロナ禍ではあるが、外出の機会や行事を減らさないで欲しい。
- ・学年が違う教員から挨拶されないことがある。(2件)
- ・すべての教員がまんべんなく専門性を身につけてほしい。(2件)

※挨拶について気になる結果や意見が出ていた。運営委員会や小中高等部各部会で検討と確認を行いました。

→検討する中では「マスクを着けている中、相手に伝わる挨拶にしないといけない。」「そもそも挨拶が少なくなっているのでは。」などの意見が出ました。改めて小中高等部の部会において挨拶の大切さについて確認を行いました。

## 3. 児童生徒アンケートより

- ① 項目7（いじめも含めた困ったことへの教職員の対応）については、文言を改めたので「わからない」という回答が16%減少している。